

令和2年度第1回海上の森運営協議会 議事録

日時：令和2年9月18日（金）

午前10時00分～正午

場所：あいち海上の森センター 3階 研修室

出席者：青山裕子委員、池竹克年委員、石川明博委員、大谷敏和委員

高野雅夫委員、田中隆文委員、森眞委員、山内徹委員（五十音順）

1 あいさつ

あいち海上の森センター所長 栗田 悟

2 協議事項等

(1) 報告事項

ア 令和元年度海上の森保全活用事業の取組状況について

イ 海上の森自然環境保全地域維持管理事業について

(2) 協議事項

ア 海上の森保全活用計画2025の進捗管理について

(3) その他

(座長選出：高野委員 座長就任)

「(1) 報告事項 ア、イ」について、事務局から説明

【座長】では、どちらの資料からも結構ですので、ご質問等があれば。

【委員】湿地の保全のところ、「新しい水脈が発見された」とありますけれども、水脈の発見された経緯や理由はどういったものか。西側で全伐の部分があり、水脈のすぐ東側でミズゴケや草の根の除去をしている。水脈はたまたま隠れていたものが出てきたのか、あるいは全伐によって水脈が新しくできるケースもあるので、そのあたりが興味深い。理由がわかればお聞かせいただきたい。

【事務局】たまたま発見されたのか、あるいは・・・もう一度よろしいでしょうか。

【座長】要は、伐ったから水が出てきたのか、それとも今まであった水脈の上にあるものを取ったから見えるようになったのか。

【委員】たまたまミズゴケを剥いたら見えるようになった、ということか。

【事務局】正確には把握していないが、おそらく「水脈があるのではないか」ということで作業を進めていったと思います。今までミズゴケや根っこに吸い上げられて湿地の方に流れてこなかった水が流れになって出てきた、ということだと思います。

【委員】全体の水の量としてはわからないか。ミズゴケなどに含まれていたのか。

【事務局】そもそも流入している量などについてはわからないが、ミズゴケが上にあったことによって湿地や池の方には今まで流れ込んでいなかったのではないかと思います。吸い上げられて、そこから蒸散していたのではないかと思います。

【委員】全伐というのはなかなかやりづらいところがある。私も経験があるが、知らない人から見ると「なんでこんなに木を伐るんだ」という声が出てくる。これはもう、そういうことがちゃんと分かって説明ができないといけない。スマレサイシンの除伐についても。今回のケースは非常に参考になるし、ちゃんと調べて「全伐はやるべきことだよ」とやっていただけたら良いと思います。

【委員】今の水脈のことにに関して。屋戸湿地を見ている実感としては、ほぼ今の説明のとおりだと思います。水脈の池に流れ込むところはミズゴケの層がすごかった。水脈に沿ってミズゴケの量がすごかったので、たぶんそれを見てA先生は「水脈があるだろう」と言われたのだと思います。ちょうど全伐をやった斜面が古くからの土堰堤で、その上流が雨が降ると水たまりになるのだが、それが引くのがすごく早かったので、位置的にもそこにあるのであろうとA先生は思われたのだと思います。

【座長】この時に現場におられた方はいますか。補足説明があれば。

【事務局】状況から言いますと、全伐についてはミズゴケが生えているところに生えていた木本類を「ここは伐るよ」と決めたエリアは全部伐りました。私は伐るだけでいいのかな、と思ったのですが、コケ剥ぎするエリアに関してA先生は伐根まで行っていた。結構太いマツも掘り上げて、学生さんには大変な作業だったと思います。ミズゴケがあったところは湿ってはいたが、先ほど委員がおっしゃられたようにだいぶ厚く堆積しており、ミズゴケがあって、その下にミズゴケの腐った層が深いところで20cm~30cmくらいあって、その下に写真にあるような水が流れている砂礫の層があって、という状況であった。私はミズゴケのみ剥ぐものだと思っていたら、砂礫の層のところまで剥ぎ取って、それを区域の外に全部持ち出す、という作業であった。結果として、すぐに水が砂礫の表面を流れるような状態になりました。この間A先生のお会いしたときには「トウカイコモウセンゴケだとかミミカキグサの発芽がみられている」ということで、湿地の植生の回復も若干出ており、剥いだ効果が出ているとお聞きしています。

【委員】予算について今後の方針をお尋ねしたい。例えば今年度はどの団体・行政もイベントが中止、事業の延期などが大変多く、やっと9月くらいから少し動き出した感がありませうけれど、半年間お休みしていたところが多いと思います。特に海上の森センターにおいては、治山費の中の森と緑づくり事業税の活用などについて、当初の日程どおり開催できなくなり開催時期の再度検討や募集人数の変更などをすると使用する予算額などの変更もあると思う。年度内でどのような代替をするのかをお聞かせいただきたい。例えば私が関わっているところではポスターセッションに経費を回すことで活用していることもある。今後のことではあると思うが、お示しいただけたら。

【事務局】事業に関しまして。私どもが計画しております「森の自然教育コース」につきましては4月～5月の一番森の綺麗な時期にするのが一番良いのだが、1月～2月、2月～3月など違う時期での開催をしていこうと思っております。コロナ対策で色々と経費もかかっているんで、人数を減らしても予算としては厳しい状況である。展示室については、手で触るものはなるべく撤去して、目で見てわかるようなものに徐々に変えていきたいと思っております。

【委員】訂正になるかと思いますが、資料2の2ページの一番下の表のところ、下から3行目のところの海上の森の会の記述ですが、日付が7月19日だったと思います。「10月」で後ろの日付のところ为空欄になっていますが、7月19日。数日行いましたがメインは7月19日です。

【委員】それとお願いですが、3ページの図の左側の枠の中の「屋戸川でのササ刈・除伐」のところに、あいちサスティナ研究所の記載はあるのですが海上の森の会の記載がないものですから、そこに名前を入れていただくと会員の励みになると思いますのでよろしく願いいたします。

【事務局】わかりました。

【座長】資料1の企業連携ということで今年ワタミさんと連携されたということなのですが、連携の経緯や連携してどういう活動をされるかなどをお聞かせいただければ。

【事務局】ワタミさんとの連携の件は、最初は環境部にワタミさんのほうから「大和リースさんやJXTGさんのような活動がしたい」という話があったのだが、環境部は豚コレラで手一杯な状況であったので当センターを紹介いただいた。「森の間伐や植栽といった活動がしたい」ということでしたので、海上の森だけでなく県有林も見学されて、最終的に「海上の森で活動したい」という申し出をいただき、企業連携という形で協定を結んだ。ワタミさんは日本全国各地で森づくりなどの活動を展開しているが、中部圏での活動エリアがなくどこか中部圏で活動場所を確保したいという考えがあったので、海上の森でやることとな

った。主に除伐や間伐などの森林整備を目的としていて、あとは社員の CSR 活動といひますか環境活動を体験させる場の提供というこゝで行っています。公益財団法人 SEF というのは、元々ワタミさんの中にあつた NPO 団体を財団法人化してやっているところなので、ワタミさん単独との連携というよりは 2 者と海上の森センターの 3 者での協定となる。SEF はワタミグループの社員の環境活動部門を展開していく団体というふうに聞いている。4 月に協定を結んで早々に新聞に記者発表して 5 月くらいにキックオフイベントをやりたいかつたのだが、コロナの関係でそれができない状況になつてしまつたので、7 月 17 日に 20 名ほどの参加で除伐などを行いました。そして資料 1 の写真のように除伐してできた広場のところでヒノキの丸太の皮むきをしてベンチを作り、今後の活動拠点としました。今後は 11 月に除伐もしくは間伐というこゝで森林整備を行つていくような方向で今話を進めています。コロナのこの状況下で活動するとなると、以前は 30~40 人が来てみんなで一斉に山で作業ができたのですが、今は 20 人くらいでやるのが一番効率よく密にならずにできるように思ひます。しかし人数が人数なのでなかなか作業範囲が広がっていかないという面がある。そんなようなこゝで今後進めていくように話を進めています。

【座長】 どんどん広がっていけば良いかなと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

【委員】パンフレットをお渡ししましたが、今回森と緑づくり税を使つてイベントを企画させていただきました。「学習と交流の場が海上の森」というこゝでやっております。コロナの対策として QR コードを作つて示す形にしました。今は子供でもスマホを扱えて、QR コード出してやるとピツつてやつて「これかあ〜」つて言つてやつていました。その資料を作つたり、夏休みの関係で人を集めたりするのに苦労しました。イベントは「親子」というこゝでやりましたから、親御さんに「こういう危険もあるので責任もつてやつてくださいよ」というこゝを了承いただいたうえで実行しました。アリのテーマのときは 4 歳の子が参加してくれて、野外に出たら夢中になつて見て探していました。変形菌のときは、豊橋から来た人がいました。ただ、イベントは這いつくばつてやるのでダニの多さに驚きました。そのためシートを買つたりしたのですが、あいち森と緑づくり事業で「予算増やしますよ」というこゝにはならなくて、「こういうときどうしたらいいですか」「中止にしたほうがいいですか」というこゝを聞いたときも回答はしてくれなかつた。何かあつたときに誰に相談したらいいのか、その窓口もわからないので、もうちょっとはつきりしてほしいです。お金の収支のこゝだけではなくて。

【座長】 ちよつと確認ですけれども、これは「あいち海上の森交流会」として行われたのこゝですか。

【委員】あいち森と緑づくり事業に申請して。あいち森と緑づくり事業の予算をもらつて。我々大学は「学習と交流の場」として人材育成をされましたので、ここにこゝだわつたイベン

トをやりました。

【座長】8月に5回やられたのですか。

【委員】5回です。一番最後のやつが、雷雨が続いていたうえに次の日で夏休みが終わり、という時期だったので、参加者が半分に減りました。8月23日に延期した「たそがれ観察会」は、参加者の方が感動していかれました。

【座長】何人くらい参加されたのですか。

【委員】アリが親子で18人。アリと変形菌は多いです。その2つだけで30人以上です。あとは8月1日のやつは0ですね、夏休み前だったので。公民館も休館で、チラシを置いてもだれも来ないのでPRが全く行き届かない。8月8日は夏休みが始まる前でしたから、少しはありましたね。参加した人がいたのが8月16日、多治見の場合は8月16日で瀬戸の場合は23日で夏休みは終わりでしたね。24日から学校がはじまりました。で、23日にやる時には「明日から学校だから」ということで参加者が減りました。だから全部で40人くらいですかね。

【座長】交流会の皆さんは何人くらいで企画されたのですか。

【委員】延べだと20何人。

【座長】実数だと。

【委員】実数だと9人。9人で活動しました。

【委員】施設利用するときにやっぱり「こういうところにベンチあったらいいな」とかね。テラスはものすごく重宝しました。

【座長】これはセンターのほうは何か連携というか協力などは。

【委員】協力はものすごくしてくれました。

【事務局】この会場、研修室を使ってもらうようにしました。

【事務局】よろしいでしょうか。県庁で海上の森センターを所管しております森林保全課緑化グループの担当です。委員の皆様方、いつも海上の森の運営・活動にご協力いただきましてありがとうございます。今委員のほうからお話がありました、施設の関係についてですけども、まず第1点として本年度は4月から5月にかけてのコロナの緊急事態宣言のときに県下全体の施設を感染防止対策ということで室内施設を中心に利用制限などをかけるこ

とになりまして、大変にご不便をおかけしまして申し訳ございません。海上の森センターも開館してから15年ほど経ってきておりまして、いろいろなところが、センター本館しかり、各施設しかりとなっておりまして、委員のおっしゃったようなウッドデッキのところも含めてやっぱり色々とガタが来ております。そちらにつきましては、今県の施設全体につきまして県有施設の維持管理・改修計画というものを作っておるところでございます。今後この施設を残していくために、今どういう不具合があってどこを改修しなければならないのか、今後長く維持していくためにはどういった改修が必要かということ調査にかけて順次改修計画を立てて作っていることになっております。こちらの海上の森センターもその県有施設の計画の中に入っておりまして、ウッドデッキや本館の中も含めて、色々なところを点検にかけまして改修計画を作ってやっていくというふうにこちらのほうで現在進めております。実際工事や改修がいつになるのかというのは予測できないのですが、現状を踏まえて海上の森センターのほうと相談して、利用の形態を含めまして計画を立ててやっていきたいと考えております。またご意見をお寄せいただければと思いますので、よろしくお願いたします。

【座長】はい、わかりました。では資料1、2に関しましては他によろしかったでしょうか。じゃあ先に進めさせていただいて、本年度の進捗管理ということで予算の方の説明をよろしくお願いたします。

「(2) 協議事項 ウ」について、事務局から説明

【座長】では、この資料についてでもいいですし、日ごろの皆さんの活動の中で海上の森に対する問題意識とかご提案とかでもぜひご発言いただければ。

【委員】細かいところですけど、「野鳥と古窯の森」のところで「生育不良木、危険木の伐採を実施」とありますが、生育不良木・危険木というのは人が入らない場所では危険木などにならないと思うのですが、生育不良木や危険木は何を基準に選定されたのかということと、除伐した木をどうしたかということですね。それをお聞きしたい。

【事務局】このように書いてありますけれども、基本的には遊歩道で散策者が通るときに頭に落ちてくるとか倒れてくるとか、そういうものを選定して、その部分だけを除去することです。これは散策者の安全対策のためにやっています。生育不良木については、被圧されて枯れていくものはそのままでもよいのですが、一番あそこで問題に感じているのがフジづるやクズづるが巻き付いていて、人の太ももくらいの太さまで成長するのでその重みで木が引き倒されてきてしまう。道沿いならば倒れてくれば伐めるのですが、最近山の中腹の木が引き倒されて、倒れてきた木にその下の木が押されてドミノ倒しのように倒され

ていって、長雨が降ったときに根元の土がずれるのかめくれ上がるのか、重なり合って倒れてきてしまうことがある。そういう危険が想定されるものについては、多少中の方でも伐る必要があるのかなと感じている。

【委員】生育不良木というよりは危険木、ということですかね。

【事務局】そうですね。危険木ともいえます。なかには、夏の間緑であったのに春になると芽吹かないなどツルに巻かれて枯れてしまっているケースがある。

【委員】除伐した木はどうしていますか。

【事務局】除伐した木は刻んで林内集積です。

【委員】伐った場所から運んで、ですか。

【事務局】その場です。運び出せないのです。

【委員】わかりました。ありがとうございます。

【委員】日頃は瀬戸市のせと環境塾にご協力いただきありがとうございます。以前もちょっとお話をさせていただきましたけれども、新しいメンバーもみえますので。令和4年度に瀬戸市で愛知県の行事として「湿地サミット」というものが瀬戸市で予定されております。実は今年度豊田市で行う予定だったのですが、新型コロナの影響で1年延伸するような話も出ているということでちょっとスケジュールが変わってくるかもしれませんが、今のところ令和4年度に瀬戸市の中で湿地サミットということで、県内の各市町村なり活動団体の方にお集まりいただいて、湿地の重要性だったり各地の活動だったりあるいは現場を見たり、ということ想定しております。今のところ海上の森センターが一番大きな拠点の候補地となるだろうなと思っておりますが、ちょっと色々と予算要求だとか人の集まり具合によってはこの施設だけでは足りない場合は、市内の市民会館や文化センターみたいなところでシンポジウムのようなことをやることも想定しております。来年度になりましたらまたご相談にあがることになるかと思っておりますので、その節はよろしく願いいたします。

【座長】参加される方は県内の方ですか。

【委員】あまりオフィシャルなサミットではないようで、我々も詳しくは把握できていない部分もあるのですが、「湿地がある」という市町村で構成されていて、その持ち回りで、ということで。昨年は名古屋市の金城学院さんのところを中心に守山区が昨年度の最後ということで、今年度が豊田で令和4年度が瀬戸、という予定になっております。

【座長】県内の方も来られる、という感じなのですね。

【委員】そうですね。

【委員】一般公募ではないのですし、誰でも応募できて、「行きたい」と思っても行けないものです。

【座長】そうなのですね。

【委員】瀬戸であれば瀬戸環境塾のメンバーは行けるけれども、入っていないと申し込めない。

【委員】今は「せと・まるっと環境くらぶ」といいます。

【委員】そう、それに入っていないと、瀬戸市が名簿を出すので、その名簿に載らないと向こうで受付ができない、と。

【座長】湿地の活動団体の交流、みたいなものですか。

【委員】そうですね。

【委員】どのくらいの規模なのですか。

【委員】開催する市町のやり方だとかによるのですが、2年くらい前は確か新城市さんかどこかで、県内の施設でシンポジウムみたいなことをやって、大型バス2、3台分くらいの人数で実際の湿地を見に行くというようなやり方をしていました。やり方は市町村などに任されています。

【委員】市長があいさつする町もあります。1つのもので300人くらい入ったこともありませんね。

【座長】ぜひ連携してやっていただけたらと思います。よろしくお願いします。あとはどうでしょう。

【委員】度々すみません。先週なのですが、ある企業さんの環境部の方とお電話でお話をしたときに、いろいろな企業さんで森づくりをしたりしながら企業連携でのCSR活動をたくさんやっています。今年はコロナ禍でとてもやれない時とか、少し後半に伸ばすようなこともありますけど、企業さんはリモートになっているのでほぼほぼやれないことが多いのですが、そんな中で「上司から言われたことがある」ということを言われたことがとても印象深かったのですが、「森づくりなどのCSR活動をやることを継続するためには目標をしっかりと設定していないとダメだ」と言われた、と。目標をしっかりとさせるためにどうしたらいいだろうか、というのをお電話いただきました。私としては、少しコロ

ナの影響で SDGs が遠のいていますけれど、とても大切なことです。しかしながら、なかなかこの言葉すら普及していないのも現状です。学生に聞いても、全く知らない学生も多々いるんですね。

この計画の進捗管理が 2025 年と書いてありますけれど、そろそろこちらの事業計画の中でも、SDGs・目標とのすり合わせをしっかりとしながら「この活動はこういったことの目標値に合致しているんだよ」と。それをやると自分の中で整理ができるんですね、今やっている活動はどれとどれとどれだ、と。海外の留学生がもし入ってきたらどうなるだろうか。もし障害のある方などいろいろな方々が関わったら人権にかかわるのではないだろうか、とか。そうやって考えていくと 10 何年の目標で森にかかわることはすごく網羅されている活動だということがよくわかるんですね。その目標を社会運動体としてここが万博の理念を継承している施設であるならば、しっかりと明確にしていくというのがとても大事で、見える化をして目標とのすり合わせをしながら 2025 年に向かいながら 30 年を迎えるという流れが本当に必要なのではないかと思う。最近ではポスターを作ってもショルダーにそういったマークを入れますね、5 つとか 6 つとか。で、その理由をちゃんと言えるようにみんなで共有しているというような状況です。まだまだ浸透しないですが、ぜひ普及していただける社会運動体としての世界をやっていくと。企業連携が多ければ多いほどなおさら関連していると思いますので、意識改革をみんなでしていくということが必要かなと思います。

もう 1 点ですが、リスクマネジメントは一昨年参加させていただきましたけど 30 名の参加でとても盛況でした。いろんな団体さんのニーズがあるということがよくわかりました。危険予知トレーニング KYT も含めて、ぜひリスクマネジメントというのは継続していけたらいいな、というのを切に思っております。以上です。

【座長】ありがとうございます。SDGs との関連・関係というのはすごく大事なかなと思います。僕らの大学でも SDGs のどの目標と関連するかということが必要になっていまして、授業のシラバスにマークがついています。保全活用計画自体が SDGs そのものなので、それをアピールするというのはすごく大事なかなと思いますので、ぜひ「どういう形で見える化をしていくか」ということをご検討ください。

【事務局】まさにおっしゃるとおりでして、県のほうでも今、様々な活動が SDGs のどれに該当するかというのを検討して広く知らしめていくように、と言われておりますし、海上の森で取り組んでいることは森林に関わるだけでなく世の中の動き全般に関わってくることで、SDGs も「森と緑を守ろう」だけじゃなくて、教育ですとか福祉ですとか様々なものに該当してくると思います。そういった整理の観点もセンターのほうと話しをしまして、整理をしていきたいと思います。またアドバイスをよろしくお願いします。

【座長】ぜひ、よろしく申し上げます。またここに出していただければ皆さんからご意見がいただけると思いますので、ぜひ案を出してください。

【委員】いいですか？体験学習だとか人材育成と書いてありますけれども、人材育成というのはこれからどういう人材を育成するのかということ。夏にイベントをやったときにはいろんな職業の人が集まった。ほかの職業の人からみると「先生」と呼ばれる人は非常にやりにくい、と言うんです。独断だとか一方通行だとか自分勝手だとか、という風に言われる。で、先生というのは、考えてみたら、この子供にどういうものを与えてどう教えるのかというのは任されているわけです。手間暇かけて教材作ったり、夜遅くまでかかって集めたりして教えますけど、普通のサラリーマンはそれをやったら上司から叱られますからね。「お前何やとるんだ。言われたことを先やれよ。」とか言って。そういうチグハグなところがあって、やっぱり慣れるまで共同で1つのイベントをやるというのはものすごく難しかったです。それでなかなか事が進まない、意思疎通ができない、と。何年もメンバーでやっていますが、それが一番難しい。だから人材育成で「森の大切さ」は教えるけれども、やっぱり根本的に育ってきた環境が違う人が一緒になってやるっていうのは、そのあたりがネックですよ。それから今の子供たちが今の学校での学習が遅れて、「どこもイベントがないから血眼になって探していた」と。それで豊橋から来た親子がいた。あっちもこっちも中止・中止で、学校は「学習を取り戻せ」とリモートの授業でやっているし。何ができるかということで自分も試行錯誤して。まずネットで見てください、それでよかったら一緒になって実物を見ようね、ということでQRコード方式にしたんです。だからみんなもこれからも、センターも人材育成でどうするかとか、学習するかとか。「参加者が4人しかなくてこれだけのお金使うの？」と。4人はモニターだとそういうつもりで、4人でやったことを世間に発表すれば、そんな発信力はないと思って、活動させてもらったんです。23日のやつは本当に次の日学校がはじまるということで参加者が半分に減りました。少なかったけれども、それをとおして我々もいろんなことを学んで、その学んだことを発信していくということに意義があるのかな、と。だから参加人数じゃなくて、これからはやったことに対してどれだけ発信するかということだなと。行事をやった、やってない、何人集まった、と。昔は知り合いに動員かけて人数集めでやったけど、そういうことはやめて、これからはこのやり方でいこうかなと。新しい学習の場は、大学なんかは授業が始まるし友達はいないし、学びの場は「集まってナンボの世界」だと。ネットでやればいいものではないと。センターも、学習の場・人材育成の場をどうするかというのを、やっぱりそのへんを考えないと、自分たちが「これが人材育成だ！」と思っていたことが、いざやってみると職業がバラバラだ、チグハグだ、となるのが私の経験です。

【座長】そこで大きな学びがあった、ということですね。

【委員】はい、自分の振り返りですね。

【委員】伐採木の林内残置のことですけれども、資料3の1ページ目のところ、①施設ゾーンの「評価」のところ「伐採木の林内残置により景観上の支障がある」と書かれています。

すけれども、林内残置してそのことが景観上支障があるのか、あるいは林内残置のしかたの問題なのか、というところですね。それから、同じページの④恵みの森のところでも、同じく「評価」のところに「伐採木残置による湿地の環境悪化」ということが書かれています。伐採木をどう扱うのか、先ほど「刻んで置く」というような話がありましたけれども、SDGsとの兼ね合いもあるので、そのへんの方針を教えてください。

【事務局】伐採木ですけれども、基本的には伐ったその場で集積なりなんなりをしていくんですけれども、集積の仕方が変だと下のほうに転がって行ったり沢の中に入ったりして、余計に防災上おかしくなるということがありますので、うまく森林に馴染むように集積したり、土壌面が流されないようにする、といった感じでやっていきたいと思っております。

【委員】残置するけれど、残置の仕方にそれなりのスキルが必要ということですか。

【事務局】はい。

【委員】資料3ののところの1ページ目のところで「大径木の伐採が困難」と書いてありますけれども、大径木を伐採して残置するにしても太い・重いということになると、このあたりは伐採した人に任すのではなく、事前の調整などがあるとよいと思います。

【事務局】この山も人工林も何十年も経っておりまして、直径の太い木を伐採せざるを得ない状況になってきています。職員では手に負えないようなものは森林組合さんなど専門のところをお願いして伐採することになりますが、伐採する方向についてもなるべく林地が荒れないような方向で行う、刻み方も長いものと二次災害につながるのを短くする、などについても考えて行っていきたいと考えています。

【委員】やはり担当者に任せきってしまうのではなくて、事前に「どういう作戦で臨むのか」というようなことを検討されるべきですね。皆さんの知恵を出し合うところかなと思います。

【委員】もう1つ。違う観点からの質問なんですけれども、このコロナの影響でなかなか生でお会いする機会も減ってきてしまっていますが、第2波が先日あって第3波がどうなるのかわからないですけれども、1つコロナの大きな影響として「ネットの普及」というのがあると思う。ネットの普及というのは、今まで外出できなかった人、たとえば小さなお子さんがいるとか、介護が必要なおじいちゃんおばあちゃんがいるとか、外出することすらできなかった人たちがネットを通じて参加できる。そういう意味で期待が増えているという面もある。ネットの導入に慎重だった企業さん、特に行政はなかなか慎重だったと思うのですが、そこもこの動きで一気にネットを導入していこうというふうになった。この間森林保全課さんとWeb会議を行ってちょっと感動したということもありますけれども、そこ

でちょっとお伺いしたいのが、海上の森のところでどのくらい太いネットがあるのか。一方通行で流すのではなくて双方向でできるようなものがあるのか、本館あるいはサテライトはどのくらいの整備なのか、ということです。一気にこの機会をとらえて、太いネット環境を整備する。本館とサテライトだけじゃなくて、もう少しいろんな場所も。そうすると今後のいろんな活動、たとえコロナが収まったとしても、先ほど申し上げたとおりあんまり外出できなかった人が参加できるという意味合いがネットにはあるので。そのあたりはどのようなふうなのでしょうか。

【事務局】 ネットにつきましては、県のネット環境を現在使っているのですけれども、会議などをネットでできるようになるといいなと思っています。

【委員】 かなり太いものがないと。双方向でやる場合にホスト役になる人がかなり配線が太くないと、落ちてしまったりしますので。

【事務局】 全体的な太いネットができるようになれば、うちの情報も映像として発信したり、そういうようなところでやっていけたらいいなと思っていますけれども、まだそこまでの試行段階には至っていません。

【委員】 なるべく太いものを導入して、双方向でライブというものが企画できるといいかなと。あるいは病院で長期入院している方とも交流ができて、その方も「新しい森林浴ができたな」という感じが抱けるような。回線を太くするチャンスというのものもあるかと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

【委員】 そういうお金が出るかね。ネット環境の。

【座長】 ここはフリーの Wi-Fi はあるんですか。

【事務局】 ないですね。

【座長】 ぜひ入れてやってください。

【事務局】 ここは県の施設ですので、県のネットワークということになってしまうので、そこはまた順次考えていきたいと思っています。情報発信という意味では、海上の森では YouTube のチャンネルを持っているので、それでいろいろな動画を上げるようになっていきますので、またそういったものも活用していけたらと思います。

【委員】 今サテライトはどういう環境になっているのですか。

【事務局】 サテライトは、ライブカメラがサテライトの玄関の上にあります。

【委員】それは光回線がサテライトに行っているということですか。

【事務局】そうですね。その映像を本館のほうで見ることができるくらい環境です。

【委員】やはりそういうものも、どんどん太いものにしていく必要があると思います。

【事務局】Zoom をやる、といったことになるとカメラが必要になるんですけど、センターにはまだカメラがないので、買わなきゃいけない。まだそういう段階です。

【委員】ノートパソコンのカメラでも結構性能がいいと思うのですが。

【委員】フォーラムの宣伝じゃないけれども、「Zoom でやる」とか言っていましたね。

【委員】ええ。

【委員】今いろんな学会が Zoom になって、そうすると参加者が2倍・3倍に増えたということが結構多くて、例年100人規模のところは300人でやったとか。やっぱり参加が増えるチャンスではあるので、「Zoom と対面との併用」といったものでもいいですし、やはりそのあたりは前向きでいったほうがいいのかと思います。

【座長】オンライン自然観察会とかね。

【委員】立ち上げました。オンライン。あ、1つ忘れちゃったけれども、切った間伐材の整理ですけど、展示室にCさんのカミキリムシの写真が貼ってありますよね。あれは朽木だとか木のところにいるよ、と書いてあるもんだから、伐って積まれてしまうと見に行けないわね。どういう風に整理されているのかな、と。間伐したやつとかを。近寄れますかね、伐ったところへ。

【事務局】間伐材を積み上げてしまうと腐りにくいので、基本的には積み上げていない状態で、転がらないように、地面にくっつくような状況で置いていますけど、広い場所でない場合は限られた場所に集積します。ただ、朽木のところへ近づくと、管理上の問題ですが、あくまで森の中は歩道沿い、「林内は危険なので入らないでください」なので、観察するイベントで見に行くときはそういうふうでいいのかもしれませんが、一般の利用者が自由に林内へ入っていくのはちょっと我々のほうでは今は認めていない。

【委員】変形菌もわざわざ朽木のところへ探しに行くもんでね。

【事務局】変形菌についてはDさんには調査の許可を出していますのでいいのですが、そうでない方がゴソゴソと林内のほうへ入っていくというのはやはり危険。そこまで我々は管理していないので、それは想定していません。

【委員】カミキリのいるところはこんなところだよ、と言われると「ああこういうところか」と。道のところにいるわけではないし、そういうところに行かないと。

【座長】それはまあ、いまのところ管理上は難しいので。

【事務局】道沿いから見れる朽木を探してもらえないかなと。

【委員】写真展で「カミキリが美しい」というのを見ると「ああ見たいな」と。「入りなさい」と言わなければならないので。

【座長】わざと道端に置いておくとか。

【事務局】意外と道端にありませんかね。結構イノシシがバラバラに蹴散らしたような朽木がたくさんあるので。

【委員】海上の森の遊歩道沿いにはたくさん朽木が落ちています。両側に。ただし、それは軒並みイノシシが全部放り込んで遊歩道を塞いでしまうものですから、それをまた片付けるというのも結構大変かなと思いますけれども。

【委員】何かのイベントをやるときに、やはりこの近くにそういう場所があるとね。非常にやりやすいな、と。わざわざ森の中に入っていかないといけないので。

【委員】1か所に大量に積まれることもありますよね。

【事務局】あれば伐採木の残置のことにもつながるのですが、間伐した木や危険木として伐ったような木は、1mくらいに刻んだ状態で最初は根元に引っ掛けるような状態で置いてあったと思うのですが、それを今度イノシシが来て全部蹴散らしてしまうものですから、それが転がり転がって、全部沢へ落ちてくる。沢に落ちたやつが今度大雨が降ると流木状態になってヒューム管や岩があるところで引っかかり、それにゴミなどが詰まって、オーバーフローした水が流れちゃってというような状況で、山が荒れるような原因にもなっている。この夏に「むささびっ子の森開拓団」というのを組織して、参加者が道を修復したり川掃除をしたりということをやりました、その一環で沢の中の流木などを全部引き上げて1か所に集積した場所があります。軽トラに5, 6杯分の流木を積んでいます。なので、先ほどの「伐った木の残置の仕方」という問題がありますが、なかなか伐る時には想定していなかったのですが、別な意味で問題が出てくるといった状態です。湿地の場合も伐った木をその場で細かく刻んだと思うのですが、結果として、湿地の管理の面から見るとそれが富栄養化の原因になるので、「そこに集積しちゃまずかったよね」というのが後でわかった。なので、水を含んで半分腐りかけたような木を影響のないところまで移動しなきゃいけないということで、順次行っている。将来的にそういう影響を及ぼさないような処理の仕方を考

えながら伐採木の処理をしなければならないので、改善点として今年度はコメントが入れてあります。

【座長】はい、よくわかりました。

【座長】全体を見ると段々と予算が無くなっていく中で縮小縮小となっていて、このままだとじり貧になっていく感じがします。施設の方も修繕が必要になってきているんですけども、愛知県の全体の公共施設の管理計画の中で非常に素晴らしい修繕とかができるのも思えないので、そういう中で何かこう発信していく、それが必要かなと感じました。一方で、昨日ですか、愛知ターゲットの目標が達成できないという話がニュースで流れていましたけれども、今日、保全事業の湿地とかシデコブシとか、これだけやっているんだよって言うことがあるわけで、愛知ターゲットが達成できない中で海上の森ではこれだけ努力しているんだよっていうのがあるんですよ、そう言ったことを発信して、全国から注目される、全国から人が来る、あるいは世界から注目されて、世界から人が来る、そんな海上の森にできないかなという感じがしました。例えば、今はコロナで外国の方は来られないんですが、開けたら外国の方がまた日本に来るはずで、そういう方たちがエコツアーでシデコブシとかギフチョウの再生の取組みについて学ぶとか、そんな話がいっぱいあってもいいんじゃないかというように思います。そういうことをなかなかセンターとしてできないと思うので、民間の人たちと一緒にやる、例えば海上の森のエコツアーをやる旅行会社を作るとか、エコツアーガイドの人達が何人か瀬戸に移住して来て公共的にエコツアーガイドをやる、なにかそういう展開を考えたいなと、何かそんな感じがしました。このままでは、じり貧でだんだん収束していく感じ、活動が消えていく感じがしているので、ここは新たな展開を考えたいなと思いました。やっていることはすごく地道で、だけど素晴らしいことをやっているんで、これを世界に発信していくことが望ましいので、何か皆さんも考えていただいて。

【委員】この資料の写真なんかはもっと発信しても良いと思う。

【座長】自然環境保全地域維持管理事業の取組みについて我々は運営員会で毎回聞いていますが他に出て行っていないですよ。すごくもったいないと思います。是非、もっと考えていきたいと思うので、次回の運営員会の時にアイデア出しみたいなことができればと思います。

【事務局】座長のおっしゃる通りで、海上の森は色んな活動して色々な方に関わっていただいて、特にこのコロナ禍の中では他の多くの施設が閉鎖している中で「こういう所があったんだ」と初めて来ていただいて、いい所だなと感じて行かれた方も多と思います。こういう取り組みをしていることが知られていないと言った所がまさに反省するところでありまして、こういった点を打ち出して、お金の確保とか、いろんな方に知っていただいてご協力をいただくという方向で我々も頑張っていきたいと思います。お力をお貸しいただければ

と思います。

【座長】役所だけでできることは限りがあります。民間の力と一緒に取り組むことが必要です。

【委員】以前から海上の森では捨て猫の問題がありまして、最近その猫への餌やりに関して市民同士のトラブルが発生しています。それに関して運営委員の方にも知ってもらった方が良いと思います。その説明と。サテライト周辺ではなくて、市道の途中の笹藪の中から猫が現れたり、笹藪の横を通って行ったりするので、ウグイスやアオジあるいはネズミなどの生態系に結構影響を及ぼしているのではないかと思います。今後のことに関してセンターの考えをお聞きしたい。

【座長】捨てに来るの。

【委員】そうですね。それと毎日来てそれに餌やりをして。これに関してセンターからご説明があればと思います。

【事務局】海上の森は条例で野生鳥獣を守っていくという趣旨でやっておりますので、基本的に捨て猫については餌撒きをされて、山に入ると、海上の森自体の野生鳥獣が脅かされる恐れがある、そういった意味では注意せざるをえない。餌をやる方にとっては動物愛護といった立場で、虐待するののかといった意見もありますので、なかなかセンターとしても全面的に禁止来ることにはできない状況です。山の中に入って明らかに餌を撒いたりすると、本当に影響があるということで注意はしております。餌やりは駐車場の入り口でやられたり、道沿いでやられたり、センター前の道路の所でやられる方もいる。地域がそれを認めているかどうかというところではいろいろありまして、地域の方々の中でもトラブルになっております。お互いに守りたいものがありますので、保護だという人もいますし、自然を守りたいという人もありますので、本当に意見が平行線状態になっております。私どもの活動の全体の主旨を理解いただけるよう努力はするんですけども、なかなかご理解いただけない状況です。

【座長】そういう問題があることは知りませんでした。認識しましたので。

森の中では餌やりは禁止ということで。看板とか立てたりしていますか。

【事務局】看板とかは立てて注意喚起しています。

【座長】それでもやる人がいる。

【委員】道路上は瀬戸市の市道ですから、森の中でやらずに道路でやる。餌をやる人にとっ

ては餌をやることは動物に対する虐待だと言う。そういう論陣を展開して厄介です。しかも餌をやる人は把握しているだけで4グループくらいある。単独の方、時々散策に見える方など、それが交代でひっきりなしに餌やりをしている。

【座長】それはちょっと、何とか調整しないといけないですね。

【委員】今の捨て猫の話に関連するのですけれども、飼えなくなったペットを捨てに来られるのは困りますよね。ニシキヘビがとか。それから、コロナ禍で初めて海上の森を訪問する方が今年増えているという話をお聞きしました。そういうことを考えると防犯、防災そういったことを考えていかないと、あまり山歩きしたことない人が来られるようになると、遭難とか真っ暗な中帰れなくなることもありますし、全体のモラル向上とかもあるので、防犯カメラを駐車場からサテライトの間の道路沿いにたくさん設置してあって、常時録画しているみたいな形になれば、猫を捨てに来る人も、餌をやる人も、カメラが見張っているんだみたいな。昔ですとカメラが見張っているとネガティブに捉えることが多かったけれど、最近だと結構受け入れられていると思うんですよね。遭難した場合もここまではいたんだと、どこまで行ったかがわかる。そういうものも色々機会をとらえてどんどん整備していくと思います。

【座長】猫の件はまた検討材料として検討していきたいと思います。

【事務局】今日欠席の委員からの資料になります。第4回あいち海上の森フォーラム2020のチラシです。第一部で海上の森で調査をされていますA先生とE先生からの海上の森での活動報告があります。E先生は海上の森でヒナノシヤクジョウとかホンゴウソウとかの菌従属栄養植物の調査をされています。最近ではツチアケビの調査研究をしています。あまり目立たない植物ですけれども面白い話が聞けるのかなと思います。

【座長】ありがとうございます。ではこれで、運営協議会を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

【事務局】委員の皆さま、誠にありがとうございました。これにて運営協議会を終了といたします。なお次回の運営協議会は3月頃を予定しておりますので、またよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

(12:14 終了)